

白井市第5次総合計画  
**基本構想素案(案)**

# 基本構想

## 1 基本理念

まちづくりの基本理念は、白井市のまちづくりに対する基本的な考え方です。

白井市を取り巻く環境は、社会経済情勢によって変わります。しかし、まちづくりには、いつの時代においても変わらない大切なことがあります。それは、全ての市民の幸せを最大化することです。

全ての市民の幸せを最大化するまちづくりとは、どのようなまちづくりでしょうか。

白井市は、これまで第4次総合計画で、市民とともに安心、健康、快適なまちづくりを進めてきました。

今後、人口の減少、少子化・高齢化の進展が予測される中、子どもから高齢者までのだれもが、暮らしの中で安心、健康、快適さを実感できる住みやすいまちづくりが、より一層重要です。

白井市は、全ての市民が「安心」して、「健康」で、「快適」に暮らせるまちを創ること、これが全ての市民の幸せを最大化することにつながると考えます。

そこで、まちづくりの基本理念として、「安心」、「健康」、「快適」の3つを掲げます。

### 安心

---

市民だれもが住みなれた地域で安心して暮らせることが、まちづくりにおいて重要です。人々が感じる安心には、治安の良さから生まれる安心、災害被害にあわない安心、地域で相談できる人がいる安心など、様々な要素が含まれています。

白井市は、これまで大きな災害が起きていません。また、市役所を中心としたエリアに消防機能があり、さらに警察や医療施設が至近に立地する予定です。これらの特性を活かし、様々な機能が柔軟かつ機動的に連携する体制を構築します。そして、市民や地域と連携しながら、様々なセーフティネットを構築し、市民が安心して暮らせるまちづくりを目指します。

### 健康

---

市民だれもが健康に暮らせることは、安心と同様に、まちづくりにおいて重要です。人々が感じる健康には、病気にならない健康、悩みや不安がない健康、充実した生活から生まれる健康など、様々な要素が含まれています。

市民が健やかな生活を送るために、年齢を問わず健康づくりのための総合的な取り組みや、心の健康を維持するための取り組みなどを進めます。そして、市民1人ひとりが心身ともに健康で、地域やまち全体が健康であるまちづくりを目指します。

### 快適

---

安心と健康が備わると、次は快適です。人々が感じる快適には、自然の風景のある暮らし、買い物の便利さ、移動の便利さなど、様々な要素が含まれています。

都市と自然が良好なバランスで共存する白井市は、都市としての快適さと自然における快適さを追求します。そして、これらの快適さが融合することにより、だれもが快適に暮らせるまちづくりを目指します。

## 2 将来像

将来像は、白井市が目指す10年後の姿です。

今後、人口の減少、少子化・高齢化の進展が予測される中、千葉ニュータウン事業が収束し、白井市のまちづくりは、新たなステージに突入します。このようなまちづくりの転換期にあっても、これまで築き上げてきたまちを、良好な形で次世代に継承していくことが重要です。

まちを持続していくためには、まちの魅力を高め、「住んでみたい」、「住み続けたい」、「住んで良かった」と思えるまちづくりを進めなければなりません。このためには、まちの特性を生かし、市民の生活の快適さを高めながら、活力あふれるまちを創っていくことが必要です。

そこで、将来像を次のように定めます。

### ときめきとみどりあふれる快活都市

市民とみどりは、白井市の財産です。今あるみどりを守り、まちの風景として育み、みどりを活かしたまちづくりを進めていくことが大切です。市民一人一人が、様々な生活場面で快適さを感じるだけでなく、みどりとの触れ合いが生活の快適さを高め、暮らしにときめきがあふれるまちづくりを進めます。

そして、人のつながり、みどりとの触れ合いが、人、地域そしてまちの活力を生み出し、だれもが快適で活力あるまちにときめくまちづくりを進めます。

快

- ・ 買う、食べる、遊ぶ、学ぶ、働く、住むといった様々な生活場面で快適さを感じる
- ・ 自然の中で、人々が憩い、快適な時間を過ごしている

活

- ・ 人がつながり、みどりと触れ合い、人の活力が生まれる
- ・ 人の活力がつながり、地域の活力が生まれる
- ・ 地域の活力がつながり、まちの活力が生まれる

快活都市

ひとつひとつは小さな存在でも、それがつながることで、大きな力を発揮する。小さなみどりのつながりが、まちの自然とつながる。つながったみどりは、まちとしての心地よさを高める。人は、みどりとの触れ合いで、暮らしを楽しむ。そんな人がつながり、人は輝き、ころろにときめきを感じる。さらに、人のつながり、みどりとの触れ合いが、人、地域、まちの活力を生み出す。人は、快適で活力あるまちを誇り、まちにときめく。そのときめきは、さらにまちを良くしようと人を動かす。そんな動きが集まり、人もまちも元気になる。

こうした相乗効果が期待できるまちづくりを進め、人のときめきとみどりがまちの快適さと活力を生み出す「ときめきとみどりあふれる快活都市」を目指します。

### 3 まちづくりの基本的視点

白井市の特性と課題、市民ニーズ、社会情勢等を踏まえて、将来像の実現のために基本となるまちづくりの視点を次のように定めます。

**若者・定住**

若年層が定住し、にぎわいや活力を生み出す

**農・みどり**

「農」を中心とした産業、豊かなみどりや河川が、快適さや活力を生み出す

**にぎわい・交流**

人が集い、人のつながりが、にぎわいや活力を生み出す

**拠点・移動**

人が集う拠点や、移動しやすい環境が、快適さや活力を生み出す

**風景・憩い**

自然を活かした憩いの場や、ほっとする風景が、快適さや活力を生み出す

### 4 まちづくりの重点戦略

まちづくりの基本的視点を踏まえて、将来像の実現に向けて、白井市が重点的に取り組んでいく戦略を次のように定めます。

#### 戦略1 若者定住プロジェクト

---

快適な生活空間の創出、子育てを楽しめる環境づくりなど、単身の若者世代やファミリー層を中心とした若年層の定住を促進するまちづくりを進めます。

#### 戦略2 みどり活用プロジェクト

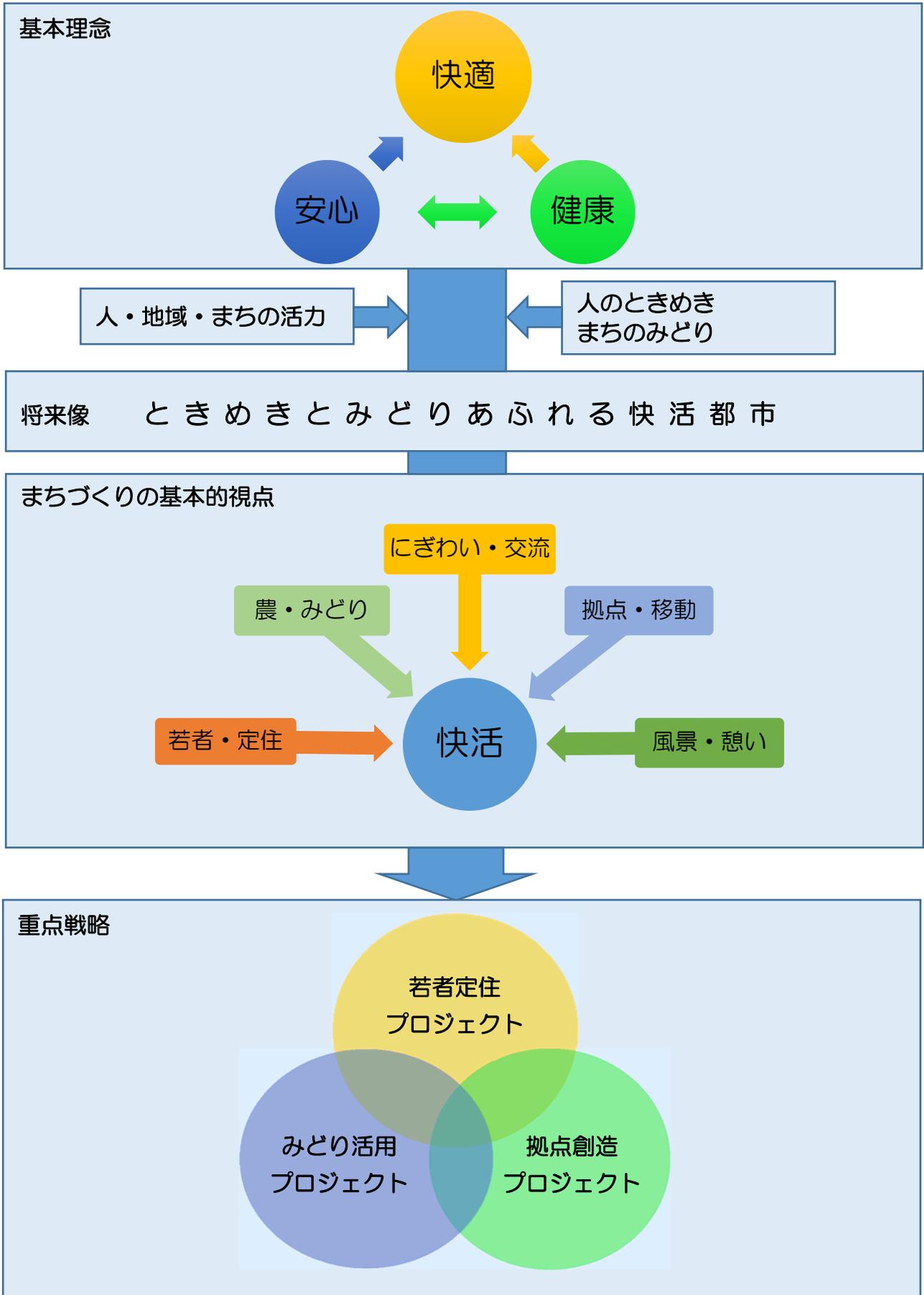
---

みどりを活かした憩いの場づくり、みどりとしての農地の保全、農の営みを活かした風景づくり、地産地消の仕組みづくりなど、まちのみどりを活かしたまちづくりを進めます。

#### 戦略3 拠点創造プロジェクト

---

駅前を中心としたまちの拠点づくり、サロンのように目的に応じて人が集まる場や空間づくり、交通弱者でも移動しやすい環境づくりなど、様々な人が集まることができる拠点のあるまちづくりを進めます。



## 5 まちづくりの進めかた

将来像の実現に向けて、まちづくりの進めかたを次のように定めます。

### (1) 情報・共有

情報は、まちづくりを進める上で重要な要素です。市民に分かりやすい情報を発信するだけでなく、市民の声を広く聴き、市民と行政がまちの情報を共有することが必要です。

市民と行政の間に双方向の情報の流れをつくり、情報を共有し、ともにまちの魅力を発信するまちづくりを進めます。

### (2) 参加・協働

地方分権の進展により、自己決定・自己責任を基本とした自律したまちづくりが求められる中、市民が積極的にまちづくりに参加し、市民と行政がそれぞれの特性を活かした役割分担のもとで、協働して、白井市らしいまちづくりを進めることが必要です。

市民は、まちづくりの主役です。市民と行政がともにまちを想い、対話し、ともに歩み、ともに創るまちづくりを進めます。

### (3) 持続可能な行財政運営

人口の減少、少子化・高齢化の進展などにより、厳しい財政状況が予想される中、自主財源の確保、事業の選択と集中による効果的な財源の配分、市民と行政の役割分担や連携など、効率的な行財政運営に努めることが必要です。

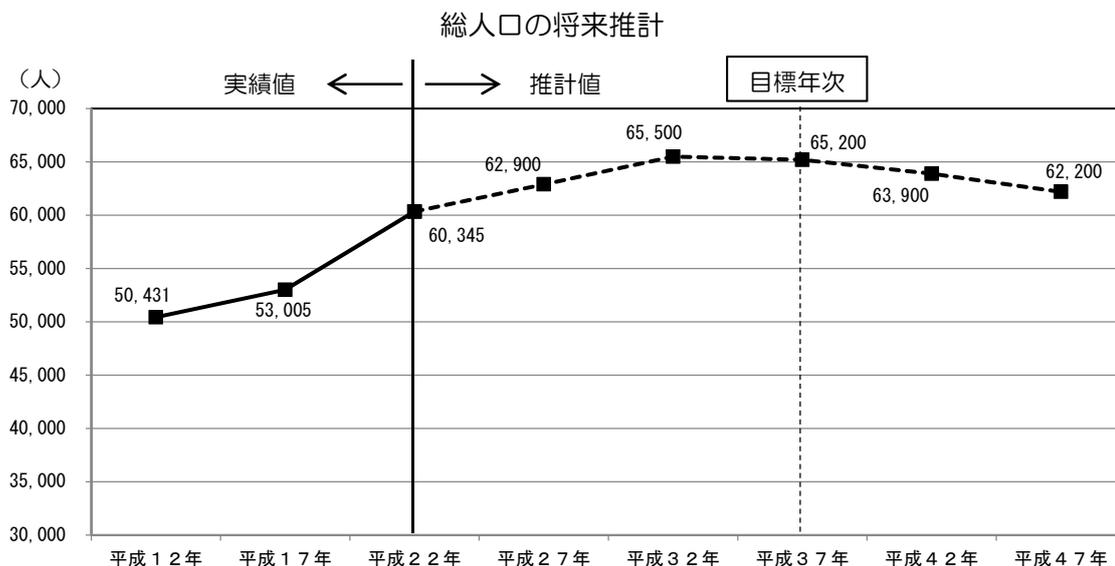
市民と行政が一体となって、創意工夫を凝らし、限りある資源を有効に活用し、必要なサービスを継続的に提供できる持続可能な行財政運営を進めます。

## 6 将来人口

### (1) 将来人口の見通し

#### 総人口

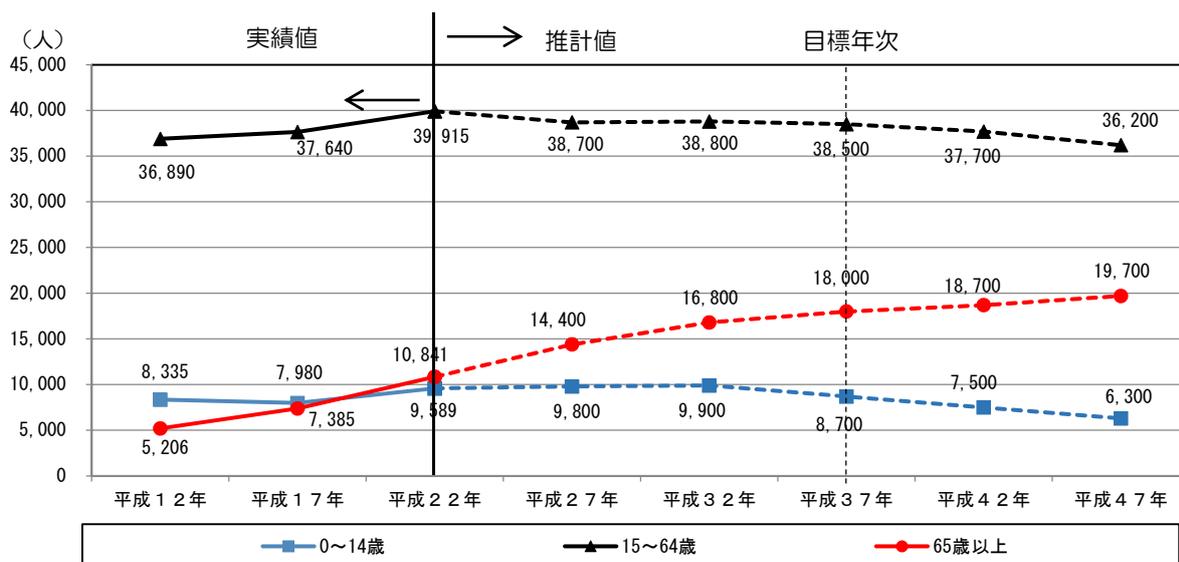
本基本構想の目標年度である平成37年の白井市の総人口は、65,200人と推計されます。平成32年までは人口流入等により増加しますが、その後は減少に転じるものと見込まれます。



#### 年齢3区分別人口

年齢3区分別人口については、65歳以上の高齢者人口が増加する一方で、15歳未満の年少人口と15歳～64歳の生産年齢人口は減少するものと見込まれます。

#### 年齢3区分別人口の将来推計



## (2) 目標人口

白井市の総人口は、平成32年以後減少に転じます。また、少子化・高齢化の進展に伴い、年少人口と生産年齢人口も減少に転じるものと見込まれます。

地域やまちの活力を向上させていくには、若年層の流入を増やし、一定の人口規模を維持することが重要です。

しかし、国全体で人口減少時代に突入している中、若年層の流入を増やすことは、簡単ではありません。

白井市は、本基本構想に掲げた3つの重点戦略を着実に推進することにより、市街化区域における未利用地などへの若年層の流入を進め、総人口を維持することを目指し、平成37年の目標人口を次のように定めます。

目標人口（平成37年） 65,500人

## 7 将来都市構造

将来像の実現に向けて、将来都市構造を次のように定めます。

白井市には、大きくは田園風景が残る緑農ゾーンと緑の中で市街地が形成されている緑住ゾーンがあることから、それぞれの魅力、特性にあったまちづくりを進めます。

中心都市拠点では、白井市全体の中心となるように、コンパクトでにぎわいのある拠点づくりを進めます。生活拠点では、地域住民の暮らしを支える拠点づくりを進めます。

各地域と中心都市拠点や生活拠点を結びつける軸や市内の様々な特性をもった地域が交流できる軸の整備を進めます。

